

施策評価シート(平成15年度の振り返り、総括)

作成日 平成 17 年 3 月 11 日

施策No.	1	施策名	計画的な土地利用
主管課名	企画課	主管課長名	馬場 照夫
関係課名	都市計画課、区画整理課、長田土地区画整理組合、商工観光課、農政課、建設課		

施策の目的①対象	市域全域	対象指標名	単位	15年度実績	16年度実績	17年度実績
		市街化区域面積	ha	1,520		
		市街化調整区域面積	ha	9,656		

施策の目的②意図	秩序を保ちながら有効な利活用を図る。	成果指標名	単位	15年度実績	16年度実績	17年度実績
		宅地化率	%	48.4		
		工業用地利用率(販売率)	%	96.8		
成果指標の把握方法(算定式など)	土地利用の実態調査により入手 区画整理地内で宅地化された面積	農地利用率(圃場整備率)	%	92.2		
		(代)計画的な土地利用(施策)に対して満足している市民の割合	%	44.0		

成果指標設定の考え方	宅地化率は、市街化区域内で宅地化された面積とする。(税務課調べ)736.1ha / 1520ha=48.4% 工業用地利用率は、第1・2・3・4工業団地の販売率とした。(商工観光課、企業誘致課データ) 農地利用率は、市内水田の整備すべき優良農地のうち圃場整備が終わった水田の率とした。(農政課データ) 代替指標として、計画的な土地利用(施策)に対する市民満足度を使う。(平成16年2月調査)
------------	--

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担	行政は、秩序を保ちながら計画的に事業を推進し、適切な情報を提供するとともに、市民の理解と参画を図る。
-------------------------	--

15年度の 評価結果	<p>1. 施策の成果水準とその背景(近隣他市や以前との比較、特徴、その要因と考えられること)</p> <p>真岡市の土地利用は、昭和45年の線引きにより計画的に進められてきた。これまで、区画整理事業や工業団地造成事業による人口の社会増を見込んできた。その結果、現在の人口は6万6千人となっている。今後も引き続き、これらの事業を推進していく。 工業用地については、北関東自動車道、鬼怒テクノ通りの整備促進に伴い、第5工業団地の造成している。 農業用地については、土地改良事業は92.2%が終了している。 森林地域については、開発に伴い減少しているため、適正保全に努めている。</p>
	<p>2. 施策の成果実績に対してのこれまでの主な取り組み(事務事業)の総括</p> <p>長田・下高間木・東光寺・亀山北・インターチェンジ周辺地区の区画整理事業を推進した。 第4工業団地の早期完売と第5工業団地の造成を推進した。 穴川西部地区・宇芳真地区土地改良事業に取り組んだ。 平地林保全については、環境基本計画の策定に取り組んだ。 都市計画マスタープラン・緑の基本計画を策定した。</p>
	<p>3. 施策の課題認識と改革改善の方向</p> <p>用途地域の見直し。 第4工業団地の早期完売と第5工業団地の分譲。 都市基盤整備のありかた検討。(総合運動公園等)</p>